

## 上越教育大学の新しい取り組み

副学長（研究・評価担当） 渡部洋一郎

教育に関わる営みは、日々変わるものではありませんが、それでも昨今の様々な動きには目を見張るものがあります。例えば、教員採用試験は今までなら多くの都道府県が7月の上旬ごろに試験日を設定していましたが、早いところでは5月に前倒しする教育委員会も出てきました。また、本学近隣の石川県や富山県では学部3年生でも採用試験を受けられる、というように制度改革を行っています。

こうした教育、あるいはそれに関連する制度の改変は、教採に限ったものではありませんし、学部3年生での受験も全国に視野を広げれば、いくつか散見することができます。ちょっと前までは、あまり考えられなかったような動きが教育の領域でもいろいろと出て来始めた、と言っても良いのではないのでしょうか。今回は、そんな中で上越教育大学をめぐる制度改革の中から、「5年一貫プログラム」という取り組みに係る話を紹介したいと思います。

この「5年一貫プログラム」とは、簡単に言ってしまうと、5年間で学部も教職大学院も終えることができる、というものです。日本の学制では、長い間、医薬系を除く大学は4年、修士課程や専門職学位課程（教職大学院）は2年という修業年限が定まっていたところ、昨年度、国の制度改革があり、一定の条件を満たせば上記のように5年で学士の学位も教職修士の学位も取得できるようになったのです。

これは、大学制度の一部を改変するものであり、もちろん実施については慎重であるべきですけれども、上越教育大学はこの令和6年4月より入学してきた本学の学部生に対して、門戸を開くべく履修制度の一部改変を行いました。詳しくは、学内の学生にこれから周知されますが、学部卒業後、さらに2年間の勉学期間と金銭的負担がこれまでは必要だったことに対し、学部修業年限に1年を加えるだけで教職修士の学位が取得できる、という制度についてはすでに何人の学生諸子が意欲を示しているところです。

これまでも飛び級を利用した学部の入学などは、一部の大学の理系学部を中心に行われてはきましたが、なかなか全国に広がるというところまでは至っていません。おそらく、メリットもある一方で、実施に関して難しい部分もそれなりにあるのでしょう。この「5年一貫プログラム」はどのように受け止められ、他大学はそれをどう評価するのか。結論が出るまでには相応の時間がかかるでしょうが、同窓会のホームページでは、今まで以上に卒業生、修了生の皆様に、こうした大学をめぐる大きな動きについてご報告をしまいたいと思います。少子化や学校の統合再編の動きが活発化している中であって、どのような大学であることが上越教育大学の魅力につながるのか、同窓の皆様のお力もお借りしながら、本学の更なる発展を考えていきたいと思っています。どうぞ忌憚のないご意見をお寄せください。また、ご支援のほど、どうか宜しくお願い申し上げます。

2024年4月10日